

特集「平成二十一年の山口祇園祭御神幸」

かつて料亭「祇園菜香亭」と祇園社は隣合わせで、祇園祭の直会が行われたことも度々ありました。

その縁と、大内文化特定地域において最も歴史ある祭事であることを鑑み、「菜香亭発祇園祭見学ツアー」を開催しました。

今回の特集では、ツアー当日御神幸について説明されたことを紹介いたします。

さて、七月二十日の祇園祭において、神輿を含む行列のことを御神幸（ごじんこう）と言います。

行列の順番は臨機応変に変更されますが、正式には以下のとおりです。

- ① 先払い（祇園囃子）、② 神職、③ 太鼓、④ 総代さん、⑤ 枝除けの棒、⑥ 猿田彦、⑦ 巫女、⑧ 幟旗、⑨ 唐櫃、⑩ 提灯、⑪ 蓋、⑫ 総代さん、⑬ 神職、⑭ 鷲の舞、⑮ 箆、⑯ 神職、⑰ 四角神輿、⑱ 六角神輿、⑲ 八角神輿、⑳ 神職。



① 真車山



① 菊水鉾



① 天狗面

① 先払いは、二基の山鉾、真車山（しんぐるやま）と菊水鉾（きくすいばこ）に、祇園囃子を演奏される方々が乗られています。

山鉾は、神輿の先導であり、これから神さまが御通りになるというお清めの意味合いを持ちます。

② ⑬ 神職は、沿道で拝む人をお祓いします。また、万一の事態が起こらないようお供奉られています。

③ 太鼓は、打ちながら歩くことによつて、沿道の家々や人々に「今から神さまがお通りになります」ということを知らせる目的があります。

⑤ 枝除けの棒は、天狗面などの高さのあるものが、木の枝などの障害物に当たらないようにするための道具です。

⑥ 天狗面は、正式には「猿田彦の神」で、神輿に乗った神様に順路を示す役割を持ちます。怖い顔をしているのは、道中、不心得者を威嚇するためであり、同時に警護の役目も担います。

⑦ 巫女は、浦安の舞を奉納した女兒の舞姫たちです。御旅所でも奉納します。

⑧ 幟旗や⑩ 提灯の紋は、八坂神社の社紋で、「五瓜に唐花」と言います。瓜の切り口を圖案化したものです。およそ全国の八坂神社ではこの紋を用い、祇園祭期間中は瓜（瓜の類い全般）を食べないという慣わし（神さまの紋を食らうことになるから）があります。

⑨ 唐櫃（からひつ）は、調度品を入れて運ぶ木箱です。祇園祭では主に祝詞・宮司の装束・宮司の烏帽子・舞姫が使う檜の扇と舞鈴・玉串を入れて運びます。

⑪ 蓋（きぬがさ）は、正式かつ重大な祭事のみ用います。山口祇園祭では、御神幸の儀飾（ぎしよく・儀式で威儀を正す目印）として用いています。昔の人は蓋を見ただけで「これは重大な祭事である」ということを理解し、姿勢を正し、乱暴な言葉を使わないなど、慎しみの目印としていました。

⑭ また、行列には「鷲の舞」のみなさんも一緒に歩かれます。



⑭ 鷲の舞



⑪ 蓋



⑨ 唐櫃



⑧ 幟旗

⑩ 提灯

⑮ 神輿の前には、ざるを持って歩いている人がいます。ざるは、これからお通りになる神さまへの「移動式賽銭箱」のようなものです。

⑰ 四角神輿にお乗せする神さまは「稲田姫尊」（いなだひめのみこと 素戔嗚尊の妻）で稲が神格化した神さまです。神輿の重さは担ぎ棒を含めると七百kgです。

神さまが女性であることから、御還幸では「おんな神輿」として約百五十名の女性によって担がれます。

⑱ 六角神輿にお乗せする神さまは「手名槌尊・足名槌尊（てなづちのみこと・あしなづちのみこと）」です。稲田姫の両親であり、稲作を行ううえでの文字通り手と足が神格化したものです。お二人の神さまがお乗りになっているため、三基の神輿では最も重量が重い神輿で、担ぎ棒を含めると九百五十kgもあります。

いかがでしょうか、それぞれについて理解を深めると山口祇園祭がもっと身近に感じられてくることとおもいます。

③



③ 太鼓



⑤ 枝除け



⑥ 天狗面



⑦ 巫女

⑰



⑰ 四角神輿



⑱ 六角神輿



⑱ 手名槌尊・足名槌尊



⑱ 神輿

山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成21年8月14日発行
第14号

発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会

山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成21年8月14日発行
第14号

発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会